

## 平成23年度病害虫発生予報第3号

長崎県病害虫防除所長

## 【予報の概要】

農作物名	病 害 虫 名	発 生 程 度	
		現 況	予 想
早期水稻	いもち病（葉いもち） 紋枯病	並 並	並 並
水稻共通	ヒメトビウンカ（技術情報第2号） 縞葉枯病（技術情報第2号） ツマグロヨコバイ 萎縮病 セジロウンカ トビイロウンカ コブノメイガ	並 やや少 並 やや少 並 並 並	並 やや少 並 やや少 並 並 並
いちご （育苗床）	うどんこ病 炭疽病（ <i>G. cingulata</i> ） （防除情報第4号） ハダニ類	並 並 並	並 並 並
アスパラガス	アザミウマ類	やや少	やや少
かんきつ	かいよう病 黒点病 ミカンハダニ チャノキイロアザミウマ ヤノネカイガラムシ	やや少 並 やや少 やや少 並	やや少 やや多 やや少 やや少 並
びわ	がんしゅ病 灰斑病 ナシヒメシンクイ	やや少 少 並	やや少 やや少 並
なし	黒星病 ナシヒメシンクイ	並 並	やや多 並
ぶどう	べと病 黒とう病 チャノキイロアザミウマ	並 並 並	やや多 並 並
果樹共通	カメムシ類	やや少	やや少
茶	炭疽病 チャノキイロアザミウマ チャノコカクモンハマキ チャノホソガ カンザワハダニ チャノミドリヒメヨコバイ クワシロカイガラムシ	並 やや多 並 並 並 並 並	やや多 やや多 並 並 並 並 並

【発生予報】 本文の( )内は平年値

## 早期水稲

### 1. いもち病(葉いもち)

#### (1) 予報内容

発生程度 並

#### (2) 予報の根拠

ア 6月上旬の巡回調査(41筆)の結果、発生を認めなかった(発生圃場率0.5%、発病株率0.0%)。

イ 6月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、発生を認めなかった(発生を認めない)。

ウ 葉いもちの感染に好適な条件を満たした日が平戸市、松浦市、島原市、五島市で6月7日、南島原市口之津町で6月7日と8日、長崎市で6月8日、佐世保市で6月8日と12日に認められた(葉いもち感染好適条件判定モデルによる。詳細はホームページを参照)。

### 2. 紋枯病

#### (1) 予報内容

発生程度 並

#### (2) 予報の根拠

ア 6月上旬の巡回調査(41筆)の結果、発生を認めなかった(過去10カ年平均発生圃場率0.2%、発病株率0.0%)。

イ 6月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、発生を認めなかった(発生を認めない)。

## 水稲共通

### 1. ヒメトビウンカと縞葉枯病

#### (1) 予報内容

発生程度 ヒメトビウンカ 並  
縞葉枯病 やや少

#### (2) 予報の根拠

ア 6月上旬の巡回調査(41筆)の結果、早期水稲におけるヒメトビウンカの株当たり虫数は0.0頭(0.1頭)、発生圃場率は26.8%(22.2%)であった。縞葉枯病の発生は認めなかった(過去10カ年の平均発生圃場率0.2%、発病株率0.0%)。

イ 6月3半旬の県予察圃場(諫早市、早期水稲、無防除)調査の結果、早期水稲におけるヒメトビウンカの株当たり虫数は0.2頭(0.1頭)であった。縞葉枯病の発生は認めなかった(発生を認めない)。

ウ ヒメトビウンカ(第1世代)の生息量及びイネ縞葉枯ウイルスの保毒状況については平成23年6月14日付病害虫発生予察技術情報第2号による。

### 2. ツマグロヨコバイと萎縮病

#### (1) 予報内容

発生程度 ツマグロヨコバイ 並  
萎縮病 やや少

#### (2) 予報の根拠

ア 5月下旬のイネ科雑草地(4地点)から採集したツマグロヨコバイ(第1世代)についてイネ萎縮ウイルスの保毒虫率検定を行った結果、保毒虫率は0%(過去10カ年平均0.0%)であった。

イ 6月上旬の巡回調査(41筆)の結果、早期水稲におけるツマグロヨコバイの株当たり虫数は0.0頭(0.1頭)、発生圃場率は19.5%(23.5%)であった。萎縮病の発生は認めなかった(発生を認めない)。

ウ 6月3半旬の県予察圃場(諫早市、早期水稲、無防除)調査の結果、早期水稲におけるツマグロヨコバイの株当たり虫数は3.9頭(1.4頭)であった。萎縮病の発生は認めなかった(発生を認めない)。

### 3. セジロウンカ、トビイロウンカ

#### (1) 予報内容

発生程度	セジロウンカ	並
	トビイロウンカ	並

#### (2) 予報の根拠

ア セジロウンカは、6月14日現在でネットトラップ及び予察灯での誘殺は確認していないが、6月12日に普通期水稲(諫早市：長崎県農林技術開発センター作物研究室圃場)において寄生を確認し、6月10～11日にかけて飛来があったと推測される。トビイロウンカは、6月14日現在でネットトラップ及び予察灯での誘殺を認めていない。

イ 6月上旬の巡回調査(41筆)の結果、早期水稲におけるセジロウンカの発生は認めなかった(株当たり虫数0.1頭、発生圃場率22.9%)。トビイロウンカの発生は認めなかった(発生を認めない)。

ウ 6月3半旬の県予察圃場(諫早市、早期水稲、無防除)調査の結果、セジロウンカの株当たり虫数は0.3頭(0.9頭)であった。トビイロウンカの発生は認めなかった(発生を認めない)。

#### (3) 防除上注意すべき事項

今後の飛来状況に注意する。

### 4. コブノメイガ

#### (1) 予報内容

発生程度	並
------	---

#### (2) 予報の根拠

ア 6月12日に蛍光灯採集箱(諫早市)及びフェロモントラップ(諫早市)で誘殺を初確認した。

イ 6月上旬の巡回調査(41筆)の結果、早期水稲において食害株及び成・幼虫の発生は認めなかった(食害株率 発生を認めない、10m<sup>2</sup>当たり成虫数0.0頭)。

ウ 6月3半旬の県予察圃場(諫早市、早期水稲、無防除)調査の結果、食害株及び成・幼虫の発生は認めなかった(食害株率0.3%、10m<sup>2</sup>当たり成虫数0.0頭)。

#### (3) 防除上注意すべき事項

今後の飛来状況に注意する。

## いちご

### 1. うどんこ病

#### (1) 予報内容

発生程度	並
------	---

#### (2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査(33筆)の結果、発病株率は5.8%(11.4%)、発生圃場率は42.4%(55.7%)であった。

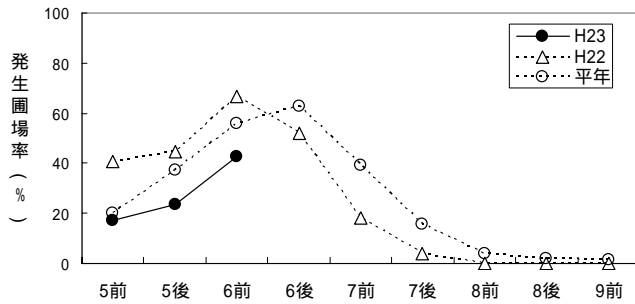


図 うどんこ病 発生圃場率の推移 (巡回調査)

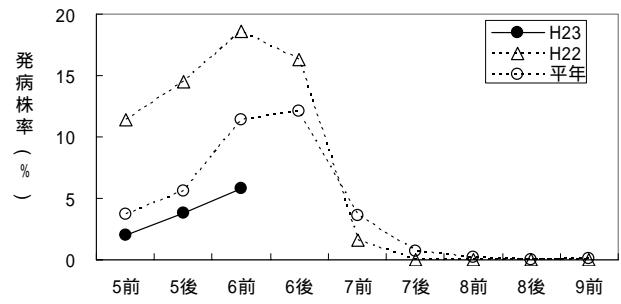


図 うどんこ病 発病株率の推移 (巡回調査)

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 多発すると防除が困難になるので、本病が発生しやすい葉裏をよく観察し、早期発見、早期防除に努める。
- イ 薬剤は、葉裏や下位葉にむらなくかかるように十分量を散布する。
- ウ 薬剤耐性菌発達の防止のため、系統の異なる薬剤をローテーション散布する。
- エ 子苗(ランナー)を切り離れた後、親株は早期に除去し処分する。
- オ 雨よけ育苗では発生が多くなる傾向があるので注意する。

2. 炭疽病 (*G.cingulata*)

平成23年6月14日付病害虫発生予察防除情報第4号による。

3. ハダニ類

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査(33筆)の結果、寄生株率は1.2%(1.6%)、発生圃場率は15.6%(18.7%)であった。

アスパラガス

1. アザミウマ類

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査(9筆)の結果、払い落とし虫数(10.5cm×22.5cmの白色板に5回×10ヶ所)は4.3頭(過去4カ年平均25.9頭)、発生圃場率は55.6%(過去4カ年平均75.0%)であった。

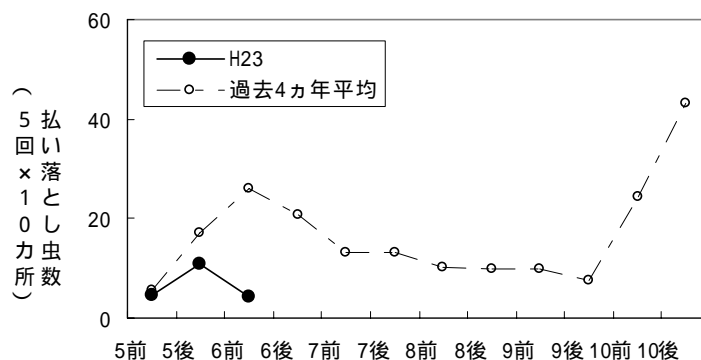


図 アザミウマ類 払い落とし虫数の推移 (巡回調査)  
払い落とし虫数は成虫、幼虫の合計

## かんきつ

### 1. かいよう病

#### (1) 予報内容

発生程度 やや少

#### (2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査(39筆)の結果、発病葉率は0.0%(0.1%)、発生圃場率は2.6%(9.6%)であった。

### 2. 黒点病

#### (1) 予報内容

発生程度 やや多

#### (2) 予報の根拠

ア 6月上旬の巡回調査(39筆)の結果、発生を認めなかった(発病果率0.0%、発生圃場率0.0%)。

イ 向こう1ヶ月の降水量は多い見込みであり、本病の発生に好適である。

### 3. ミカンハダニ

#### (1) 予報内容

発生程度 やや少

#### (2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査(39筆)の結果、寄生葉率は2.4%(9.7%)、発生圃場率は28.2%(51.6%)であった。

### 4. チャノキイロアザミウマ

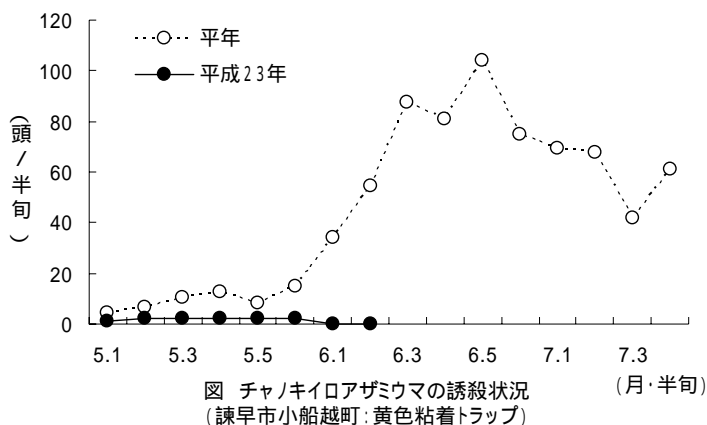
#### (1) 予報内容

発生程度 やや少

#### (2) 予報の根拠

ア 6月上旬の巡回調査(39筆)の結果、発生を認めなかった(被害果率0.0%、発生圃場率0.5%)。

イ 黄色粘着トラップ(諫早市小船越町)による誘殺量は、平年より少なく推移している(図)。



#### (3) 防除上注意すべき事項

ア 下表の予測発生ピーク日5日前から発生ピーク日に薬剤散布をすると防除効果が高い。

イ ただし、発生が多い園では1果当たりの寄生虫数が、0.1頭に達する前に防除を行う。

ウ 茶、かき、ぶどう、イヌマキなどから移動して加害することがあるので、それらでの発生にも注意する。

表 チャノキイロアザミウマ発生予測プログラムによる成虫の予測発生ピーク日

	長崎	大瀬戸	佐世保	口之津	平戸
第2世代	6/13	6/22	6/14	6/14	6/25
＼ (前年)	(6/6)	(6/16)	(6/9)	(6/5)	(6/21)
第3世代	7/4	7/14	7/5	7/5	7/17
＼ (前年)	(6/29)	(7/9)	(7/1)	(6/28)	(7/14)
標高(m)	27	43	4	10	58

注1：気温データは各地域のアメダスデータを使用した（表中の地名：アメダス地点）。

注2：平成23年6月12日時点で予測し、6月13日以降のデータは平年値を使用した。

注3：同一地区内でも、山間部では予測発生ピーク日が異なる場合があるので注意する。また、降雨等により予測日が変動する場合がある。

## 5. ヤノネカイガラムシ

### (1) 予報内容

発生程度 並

### (2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査（39筆）の結果、発生を認めなかった（寄生葉率0.0%、発生圃場率0.3%）。

### (3) 防除上注意すべき事項

各地区の防除適期（初発日の40日後）は下表のとおりと予測される。

表 ヤノネカイガラムシの防除適期

地点	長崎	大村	島原	口之津	大瀬戸	佐世保	松浦	平戸
予想初発日	5/12	5/14	5/13	5/12	5/13	5/13	5/15	5/15
＼ (前年)	(5/6)	(5/8)	(5/6)	(5/5)	(5/8)	(5/7)	(5/10)	(5/10)
有機リン剤防除日	6/21	6/23	6/22	6/21	6/22	6/22	6/24	6/24
標高(m)	27	3	9	10	43	4	5	58

注1：初発予測は「果樹防除適期判定システム（ヤノネカイガラムシ）」を利用した。

注2：初発日は気象庁アメダスの気温データを用いて算出した。

注3：同一地区内の圃場でも標高や土地条件により気温が異なり、予測ピーク日が前後する場合があるので注意する。

## びわ

### 1. がんしゅ病

#### (1) 予報内容

発生程度 やや少

#### (2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査（10筆）の結果、発生を認めなかった（発病枝葉率1.9%、発生圃場率50.0%）。

### 2. 灰斑病

#### (1) 予報内容

発生程度 やや少

#### (2) 予報の根拠

ア 6月上旬の巡回調査（10筆）の結果、発病枝葉率0.3%（11.7%）、発生圃場率は20.0%（91.3%）であった。

イ 向こう1ヶ月の降水量は多い見込みであり、本病の発生に好適である。

### 3. ナシヒメシンクイ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 6月上旬の巡回調査(10筆)の結果、発生を認めなかった(寄生枝葉率0.0%、発生圃場率1.3%)。

イ フェロモントラップ(諫早市小船越町)の誘殺量は平年並で推移している(図)。

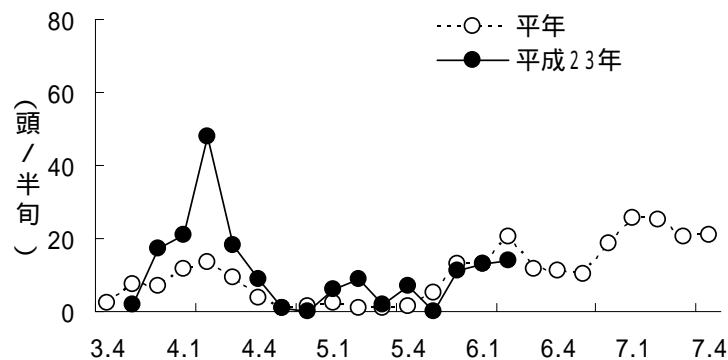


図 ナシヒメシンクイの誘殺状況 (諫早市小船越町:フェロモントラップ)

なし

### 1. 黒星病

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 6月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発病葉率は0.2%(1.0%)、発生圃場率は34.9%(25.0%)であった。

イ 向こう1ヶ月の降水量は多い見込みであり、本病の発生に好適である。

(3) 防除上注意すべき事項

ア スピードスプレーヤで散布する場合は全列走行とし、圃場の周囲等で薬液が到達しにくい場所は手散布を併用する。

イ 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一薬剤の連用を避ける。

### 2. ナシヒメシンクイ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

フェロモントラップ(諫早市小船越町)の誘殺量は平年並で推移している(びわの項参照)。

ぶどう

### 1. ベと病

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 6月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発生を認めなかった(発病葉率0.1%、発生圃場率3.1%)。

イ 向こう1ヶ月の降水量は、多い見込みであり、本病の発生に好適である。

ウ 昨年の発生が多かったため、病原菌の越冬量は多いと予想される。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 降雨後の乾燥を図るため、枝梢管理を適切に行って通風、採光を良くする。

イ 降雨が多いと多発するので、天候を見ながら防除を徹底する。

## 2. 黒とう病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査(12筆)の結果、葉での発生は認めなかった(発病葉率0.3%、発生圃場率13.5%)。また果房では、発病果房率は0.0%(0.0%)、発生圃場率は8.3%(0.8%)であった。

## 3. チャノキイロアザミウマ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 6月上旬の巡回調査(12筆)の結果、被害果房率は0.6%(0.3%)、発生圃場率は16.7%(8.3%)であった。

イ 黄色粘着トラップ(諫早市)による誘殺量は、平年より少なく推移している(かんきつの項参照)。

### 果樹共通

## 1. カメモムシ類

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

ア 各地区のフェロモントラップの誘殺量は平年並~やや少なく推移している。

イ かんきつ、びわ、なしにおける巡回調査の結果、圃場への飛来を認めなかった。

ウ 病害虫防除員の報告によると、果樹園への飛来は平年並~少ない。

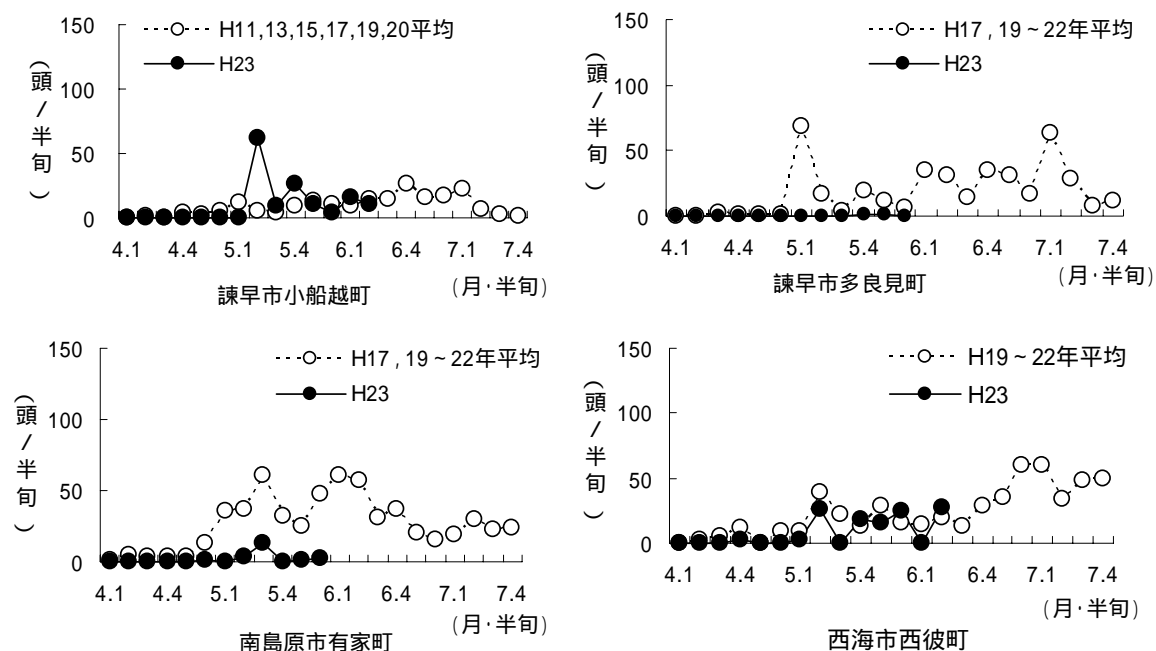


図 チャバネアオカメモムシ・ツヤアオカメモムシの誘殺状況(黄色コガネコール)



# 茶

## 1. 炭疽病

### (1) 予報内容

発生程度 やや多

### (2) 予報の根拠

ア 6月上旬の巡回調査(20筆)の結果、1㎡当たり発病葉数は1.1枚(1.5枚)、発生圃場率は35.0%(24.9%)であった。

イ 向こう1ヶ月の降水量は多い見込みであり、本病の発生に好適である。

### (3) 防除上注意すべき事項

薬剤耐性菌が発生しやすいので、同一薬剤を連用しない。

## 2. チャノキイロアザミウマ

### (1) 予報内容

発生程度 やや多

### (2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査(20筆)の結果、たたき落とし虫数(A4版トレイ)は45.7頭(14.9頭)、発生圃場率は95.0%(79.7%)であった。

### (3) 防除上注意すべき事項

薬剤感受性低下を防ぐため、同一薬剤の連用は避けローテーション散布する。

## 3. チャノコカクモンハマキ

### (1) 予報内容

発生程度 並

### (2) 予報の根拠

ア 6月上旬の巡回調査(20筆)の結果、1㎡当たり巻葉数は0.0枚(0.1枚)、発生圃場率は10.0%(7.8%)であった。

イ フェロモントラップによる誘殺量(農林技術開発センター茶業研究室調査)は平年並で推移している(図)。

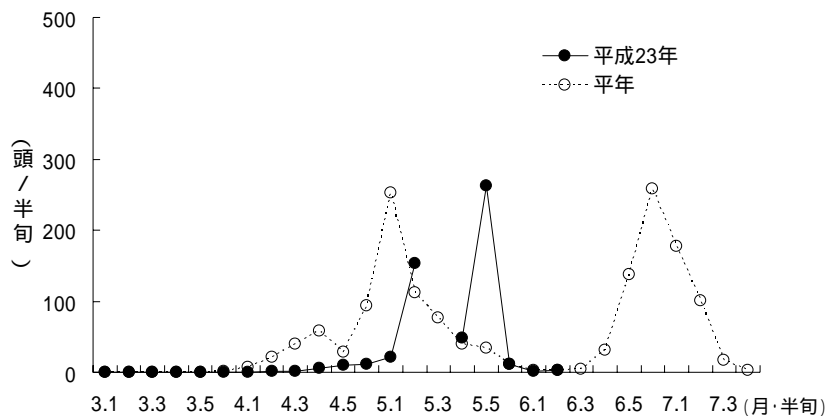


図 チャノコカクモンハマキの誘殺状況(東彼杵:フェロモントラップ)

注: 5月3半月は欠測

#### 4. チャノホソガ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 6月上旬の巡回調査(20筆)の結果、1㎡当たり巻葉数は0.0枚(0.1枚)、発生圃場率は5.0%(6.9%)であった。

イ フェロモントラップによる誘殺量(農林技術開発センター茶業研究室調査)は平年並で推移している(図)。

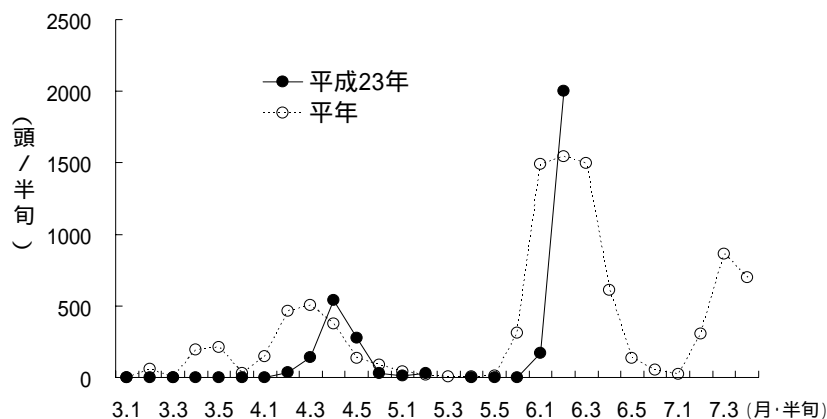


図 チャノホソガの誘殺状況(東彼杵:フェロモントラップ)

注: 5月3半旬は欠測

#### 5. カンザワハダニ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査(20筆)の結果、寄生葉率は0.7%(2.0%)、発生圃場率は15.0%(15.0%)であった。

#### 6. チャノミドリヒメヨコバイ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査(20筆)の結果、たたき落とし虫数(A4版トレイ)は1.9頭(2.0頭)、発生圃場率は70.0%(45.8%)であった。

#### 7. クワシロカイガラムシ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査(20筆)の結果、寄生株率は6.4%(7.1%)、発生圃場率は45.0%(38.3%)であった。

